

- a 折紙 模倣して折らせる
- b メトロノームと拍手及足踏 示範にあはせて速速を調べる
- c 身振り 簡単な身振り
- d 畫と實物 ラツバ、テツボ、ボシ等の實物と同じ繪カードを拾はせる
- 4 形 態 (A・B)
 - a 三角形 a・b・c 何れも組にて同じ形態を机上に拵らへさす
 - b 圓
 - c 四角
 - d 大小 比較判定、油土にて大小六つの球を準備し之を大きい順に並べさす
- 5 數 (テスト者が十以内の數を示して數觀念を調べる)
 - a 指とエンピツ
 - b 數カードと指
 - c テーブルを叩いて指を出させる
- 6 記 述 (各人にエンピツにて書かせる)
 - a 形 (四角、圓、三角の三種)
 - b 横直線、横點線
- 7 音 聲 調 査
 - 1 a 唇、b 齒、c 懸雍垂

- 2 ア音の發音時に於ける舌の位置及狀態
 - 3 顎の運動
 - 4 呼 吸
 - 5 口形模倣、發聲狀態
 - 6 發語 (單語、單句、單文)
 - 7 聽 能
 - 8 人 物 考 査 (最後の室に於て校長及び新一年擔任者は各兒童及び附添ひに關して人物考査を行ふ)
- 以上の八種目、十一ヶ所のテストに於いて各々採點されし物によつて成績を判定し、尙身體檢査の結果及年齢性別其他を要件として所定の人員の入學を許可する事になる。

入學志願者及入學者表

年 度	志 願 者	入 學 者
大正十四年度	九〇	六四
同 十五年度	六〇	四八
昭和二年度	六四	四八
同 三年度	四八	二七
同 四年度	九一	二七

同	五年度	六一	二七
同	六年度	六四	四二
同	七年度	九八	四〇
同	八年度	一〇二	四二
同	九年度	七三	四二

父兄講習

教育上家庭の協力の必要なことは言ふ迄もないことであるが、特に塾教育に於いては、其の必要が大である、又一般の普通教育にあつては、生徒の年級が進み年齢が長ずれば、漸次父兄の指導する部分が少くなり、大部分は生徒の自習に任せ得られるのであるが、塾教育に於いては、之れと反對に、生徒の言語能力が進めば進む程、父兄の指導し得る範囲が大きくなり、父兄の指導が多ければ多い程生徒の言語能力は大となるのである。

茲に於いて、學校としては、家庭に於ける正しき指導者を養成する意味で、度々父兄講習を行ひ、塾教育上留意すべき點、或は豫修復習の要領を説き、積極的には生徒の成績の向上を圖り、消極的には、誤つた指導法のため生徒の不幸を招來することのないやうに努めてゐる。

我が校は、市立であり、東京市民の子弟を收容することゝなつてゐる爲め、全部が通學であり、従つて殆ど全部が家庭の世話になつてゐることは、口話教育上非常に好都合である、且つ又生徒の家が市内にあるところから、父母兄弟の附添に便利であり、自然一二年は附添ふのが當然のやうになつてゐることは非常に喜ばしいことである。

學校としては、日々熱心な附添ひを感謝すると共に、少くとも入學後一ケ年間は、必要缺く可からざることゝ考へてゐる。又大多數の父兄が、附添つて來られる結果、附添のない児童は勢、段々遅れて遂には落伍せざるを得ない場合が多いので、近來は、附添を入學の一條件としてゐる次第である。

次に父兄講習の項目を掲げて、學校理想の一端を示すことゝする。

一 入學式當日

附添 心得

- (イ) 受持教師を信頼すべきこと
- (ロ) 日々登校すべきこと
- (ハ) 遅刻しないこと
- (ニ) 朝禮の際は、運動場に整列し、児童と共に體操をすること
- (ホ) 授業中隨意教室に出入せぬこと
- (ヘ) 授業中児童を叱つたり教へたりせぬこと
- (ト) 児童によき手本を示す意味にて教室の掃除をすること
- (チ) 日々必ず復習をしてやること
- (リ) 家庭に於いて、児童の世話を附添の人一人に任せず、全員協力して當ると云ふよい家風をはやくつくること
- (ヌ) 學校の歸途、回り道を避け、或は児童に物を買ひ與へぬこと
- (ル) 御祈禱やお呪に迷はぬこと

二 讀話指導に就いて

家庭復習に於ける心得

- (イ) 家中のものが顔を見る毎に話しかけること
- (ロ) 漸次復習時間を設けること
- (ハ) 単語だけで話をしないこと
- (ニ) 手や顔や目つきで暗示を與へないこと
- (ホ) 大声を出さぬこと。口形を誇張せぬこと
- (ヘ) 兒童に餘り顔を近づけぬこと
- (ト) 採光通風に注意すること
- (チ) 特に氣長に指導すること

家庭指導に於ける心得

- (イ) 嬰兒用語を作らぬこと
- (ロ) 言ひ換への練習をすること
- (ハ) 終り迄よく見る習慣をつけること
- (ニ) 検討すること
- (ホ) 同じことを何回も繰り返すより他の言葉と比較判断すること
- (ヘ) テスト問題を活用すること
- (ト) 口話的家風を作ること
- (チ) 理想を高く有つこと

發語指導上の心得

- (イ) 發語を急がぬこと
- (ロ) 文字を急いで教へないこと
- (ハ) 長音で誘導すること
- (ニ) 涉りを練習すること
- (ホ) 語調練習表を利用すること
- (ヘ) 自由母音を練習すること
- (ト) 本などを讀ませて聞いてやること
- (チ) ならつた言葉の實用化に力めること

其 他

- (イ) 躰上の注意
- (ロ) 職業問題のこと
- (ハ) 學校と連絡のこと

柏葉十年

- 1 點描十年(學校小史)
- 2 本校現職員一覽簿
- 3 舊職員轉退亡簿
- 4 T·O·S·I·R·O 親睦會

點 描 十 年

學 校 小 史

我が東京市の教育施設中に聾教育機關を設置すべしとは、夙に斯教育界の先覺前東京聾啞學校長小西信八氏が熱心に唱道し、且市當局に懇願し來りしところなるが、大正十二年八月二十八日勅令を以て聾啞教育令を布かるゝや、時の東京市學務課長佐々木吉三郎氏は、大正十三年度に於て之が設置を企圖せしも、不幸病歿するところとなりて空しく一年を経過せり。

後任藤井利譽氏其の遺志を繼ぎて銳意之が實現を圖り、恰も歐米の聾啞教育を視察して歸朝せる東京聾啞學校教諭川本宇之介氏に依囑して其の調査をすゝめ、先づ特別學級として之を設くることゝし、適當の小學校を物色の結果、時の日比谷尋常小學校長中澤留氏進んで之れを諾し、時の麹町區長澁谷徳三郎氏亦援助を吝まず、遂に大正十四年五月一日、日比谷尋常小學校内に特別學級三、東京市直營たりし萬年尋常小學校（現在上野尋常小學校にして校長今井悅藏氏、後岡田雅氏）内に特別學級一（手話組）合計四學級を新設し、始めて聾教育を開始せり。

五月一日入學式舉行、同日授業開始（日比谷小學校兒童數男一六、女二二計三八、萬年小學校兒童男一五、女八計二三）

十二月一日東伏見宮大妃周子殿下萬年小學校に御成の節、親しく授業を御覽遊ばさる。

大正十五年四月、新入學兒童申込締切後入學を志願せる者多數あり、右保護者の熱心なる要求により、上野小學校（同年四月一日區移管と共に萬年小學校を改稱）内に更に一學級を特設することゝなり、六月一日入學式を舉行す兒

童數男九、女一五、計二四。

六月二十二日東京市立豊學校設立認可、日比谷小學校長中澤留校長を命ぜらる（上野小學校内の第一學年は同校特別學級として存置）

昭和三年一月二十五日中澤留校長を免ぜられ、第二東京市立中學校教諭大池菅根專任校長に就任。

四月一日府下北豊島郡巢鴨町字宮下一八五〇番地東京市保健局所管假校舎へ移轉。

昭和五年十月二十七日勅語贈本御下賜。

昭和六年三月初等部第一回卒業式舉行。

昭和六年四月十六日中等部設置並に學則變更認可。

昭和七年九月増築成り、運動場を鋪裝す。

昭和七年十一月三十日高松宮並妃兩殿下台臨。

昭和八年一月十六日賀陽宮殿下台臨。

同年三月十四日賀陽宮妃殿下台臨。

現在職員名簿

職名	氏名	出身地	變學校資格	出身學校	前學按任	從事年數	從來擔任學級
校長	大池菅根	岐阜	東京豊學校部	廣島高師英語部 東京高師專攻科修身 愛知師範二部 法政大學國漢科		八年	松、栴、鈴懸學級
教諭	石黒昴	愛知	東京豊學校部	愛知師範二部 法政大學國漢科		九年	竹、山茶花、金木犀、鈴懸學級
	横田重次郎	茨城	同	茨城師範一部		八年	櫻、楠、撫子學級
	大石五郎	熊本	同	熊本師範二部		六年	竹、葡萄、金木犀學級
	小川明	長崎	同	長崎師範一部 東洋大學專門部		七年	松、椿、竹學級
	大野健	茨城	同	茨城師範一部		七年	中等部工藝科、初等部手工
	吉信勤一	和歌山	同、工藝科	和歌山校		九年	木犀、林檎學級
	清水清幸	愛媛	同、師範部	愛媛師範一部 法大高師國漢科		四年	櫻、梅學級
	佐藤武仁	山梨	同	山梨師範二部		四年	初等部圖畫手工、東學級
	小室謙一	愛知	同、圖畫科	立正大學高師地歴科		四年	中等部裁縫科
	井手トモ	佐賀	認可裁縫	和洋女子專門學校		四年	竹、藤、梅、からたち學級
	飯高みね	千葉	同	(同前)		二年	楠、柿學級
訓導	伊東キク	岩手	東京豊學校部	岩手縣東北女學校	島根校	十一年	松、桂、桃、櫻學級
	小竹キヨ	岐阜	認可	日本女子大學國文學科	京都校	十五年	梅、南天、柿、菖蒲學級
	阿部しげ	岩手	東京豊學校部	岩手師範一部		八年	
	風間惠以	長野	同	東京女子體操音樂學校		七年	

職員親睦會々則 (昭和九年六月現在)

第一條 本會ハ東京市立聾學校職員親睦會ト稱ス

第二條 本會ハ本校職員相互ノ親睦互助ヲ計ルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ本校現在ノ教職員ヲ以テ組織ス

第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

幹事 拾名(内 幹事長壹名)

但シ幹事ノ任期ハ壹ケ年トシ新學年毎ニ教職員輪番之ニ當ルモノトス

幹事長ノ任期ハ壹ケ年トシ幹事ノ互選トス

第五條

本會ヲ維持スルタメ左ノ規定ニ依リ毎月壹回(便宜ノタメ給料日當日)會費ヲ徴收ス
但シ幹事ニ於テ必要ト認メタル時ハ臨時徴收スルコトアルベシ

1 通常會費 俸給ノ百分ノ壹

2 特別會費 金五拾錢也

イ 特別會費ハ旅行其ノ他ノ會合等ニ充ソルモノトス

ロ 特別會費ノ年度末ニ於ケル殘餘金ハ之ヲ通常會費ニ繰入ルルモノトス

第六條

會員中左記各項ノ何レカニ該當スル者アル時ハ金品ヲ贈リテ之ガ祝意ヲ表ス

1 結婚シタル時 金五圓也

2 出產アリタル時 金五圓也

第七條 會員中左記各項何レカニ該當スル者アル時ハ金品ヲ贈リテ之ガ慰問ノ意ヲ表ス

1 會員死亡シタル時 金百圓也

2 會員ノ配偶者死亡シタル時 金五拾圓也

3 會員ノ兩親又ハ子女死亡シタル時 金拾圓也

4 會員病氣ノタメ入院シタル時

イ 拾日ニ及ビタル場合 金拾五圓也

ハ 入院六十日以上ニ及ビタル場合ハ臨時總會ヲ開キテ慰問ノ方法ヲ決ス

5 會員病氣ノタメ缺勤シタル時

イ 拾五日ニ及ビタル場合 金拾圓也

ハ 其ノ後卅日ヲ經過シタル場合 金拾圓也

ニ 九拾日以上ニ及ビタル場合ハ臨時總會ヲ開キテ慰問ノ方法ヲ決ス

6 其ノ他

第八條 會員中新任又ハ轉職者アリタル時ハ左ノ規定ニ據ル

1 新任者アリタル時ハ歡迎茶話會ヲ開ク

2 轉退職者アリタル時ハ送別茶話會ヲ開キ記念品ヲ贈ル

記念品ハ勤續年數ニヨリテ左ノ通り定ム

イ 壹ケ年以上參ケ年未滿ノ者ニハ 金五圓也

ハ 五ケ年以上七ケ年未滿ノ者ニハ 金貳拾圓也

ホ 拾ケ年以上ノ者ニハ 金五拾圓也

ロ 參ケ年以上五ケ年未滿ノ者ニハ 金拾圓也

ニ 七ケ年以上拾ケ年未滿ノ者ニハ 金參拾圓也

第九條 右各條件外ノ贈呈金品ニ就キテハ幹事ニ於テ會員ノ半數以上ノ賛成ヲ得テ之ヲ行フ
 第十條 贈呈ニ對シテハ一切返禮ヲ受ケザルモノトス
 第十一條 本會々則ハ會員參分ノ貳以上ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ變更スルコトヲ得ズ
 第十二條 本會々則ハ十二條ニ分チ昭和八年四月十八日ヨリ之ヲ實施ス

トシヨロ
職員親睦會旅行

昭和三年十月 箱根清遊(口繪寫真十八頁)
 昭和四年六月 橫濱市立聾學校を視察後三溪園に遊ぶ
 同 年九月 水郷に遊ぶ(口繪寫真)
 昭和五年五月十日 長野縣立盲啞學校視察、善光寺に詣で上山田温泉に遊ぶ
 同 年十月二十一日 馬淵聾學校視察後軍港見學
 昭和六年一月三十日 中郡盲啞學校視察後熱海清遊
 同 年十月二十四日 群馬縣立盲啞學校に於ける關東部協同研究會に出席の序を以て伊香保に遊ぶ(口繪寫真)
 昭和七年六月二十一日 館林蹠躑園に遊ぶ
 同 年九月二十一日 茨城縣立盲啞學校に於ける關東部協同研究會に出席の序を以て大洗に遊び(口繪寫真)、歸途水郷を視る。
 昭和八年一月二十一日 (親 劇)
 同 年十一月五日 大島に遊ぶ(口繪寫真)

十年の兒童

- 1 現在兒童通學區域
- 2 在學生名簿
- 3 卒業生名簿とその動靜
- 4 兒童轉退亡簿



計	部等中	部等初	
一四二人	四〇人	一〇二人	男
一二一人	三七人	八四人	女
二六三人	七七人	一八六人	計

兒童通學區域
〔昭和九年六月現在〕

在學生名簿 (昭和九年六月一日現在)

中等部第四學年

工藝科 六名

西卷 周文 大正三・二一

井上朝三郎 大正四・二一

裁縫科 一〇名

海野 德子 大正六・三

益田 東作子 大正二・一〇

中山 健一 大正三・一〇

松山 繁夫 大正六・一一

馬場潤之助 大正四・一二

松浦 康夫 大正七・一

濱野 秀男 大正三・一一

山本 豐 大正七・一一

小泉 豐 大正四・一

河村 千歲 大正五・八

金井 勝 大正八・三

正田 重子 大正五・一二

沖本とらよ 大正三・八

廣木喜一郎 大正四・一一

中等部第三學年

工藝科

千葉 利夫 大正六・九

堀部 庄太郎 大正八・一

柏崎 實 大正七・六

中山 勇 大正四・四

安藤 信治 大正五・三

倉持 利平 大正四・三

廣田 廣 大正七・六

小池 登 大正五・五

岡澤 貞 大正七・四

秋田 寛二 大正五・五

村田 弘 大正六・一一

中等部第二學年

工藝科

三橋 正二 大正一・〇・二

池田 了秀 大正四・三

東條 收 大正一・〇・二

長谷川 隆三郎 大正八・六

一色 磯太郎 大正三・二

井口 浩 大正九・二

裁縫科

佐藤 太郎 大正五・一〇

東條 九子 大正八・五

島田 榮子 大正九・三

井上 信子 大正三・九

國廣 通子 大正五・六

塚原 敏子 大正三・一〇

川村 八重子 大正七・八

小倉 米子 明治四五・六

加藤 富美江 大正六・四

柴田 靜江 大正四・一一

栗本 清次 大正九・二

中等部第一學年

裁縫科

三橋 元代 大正九・一

久保 みえ子 大正一・〇・一

石神 初枝 大正一・〇・一

齋藤 新之助 大正六・一

柳下 正巳 大正九・一一

石川 愛子 大正一・〇・三

平賀 榮子 大正八・十

小竹 綾子 大正元・一

木村 鎮三郎 大正八・三

高橋 敏夫 大正一・〇・一

高柳 和子 大正九・八

川野 榮子 大正八・一二

長谷部 歌子 大正四・九

兒島 初枝 大正六・一〇

小林 智 大正一・〇・一

工藝科

海野晋之助 大正九・二一 新橋 博久 大正三・九

裁縫科

内田 芳江 大正四・七 三間 綾子 大正五・一一
中山 とよ 大正四・六 長野 きみ 大正五・二二
村瀬 直亮 大正七・三 吉田 幸子 大正九・八
宮田 光枝 大正一〇・二 金子 悦三 大正七・六
村田 周次 大正七・二 柴田 武三 大正九・四

東條 ハル 大正五・三
杉本 照子 大正八・三
小金井 しん 大正八・八
渡邊 毅 大正八・五

初等部第六學年

輕學級 男 六名、女 四名

林 田 睦 大正七・三 福島喜美代 大正八・二
宮田 忠雄 大正八・一〇 佐々 周 大正九・三
山岸 六男 大正九・六 栗野 政子 大正八・二
綿貫みつゑ 大正一〇・八 猿渡光太郎 大正九・三
楠學級 男 五名、女 七名
十河 美博 大正一〇・一〇 齋藤日出男 大正一〇・一〇
古達 豊彦 大正一一・一〇 横山 愛子 大正九・八
照内 正三 大正一一・一
辻村千枝子 大正一〇・一一

初等部第五學年

松學級 男 七名、女 五名

甲斐山美子 大正一〇・四 平賀壽美子 大正一一・二
小林 治子 大正一二・二 後藤 幸男 大正一〇・九
島津 富枝 大正一一・二
小出 秀子 大正九・一

中田みさを 大正一〇・五
廣井 正雄 大正一一・一
服部 アヤ 大正一二・八
本間 芳二 大正八・一二

竹學級 男 七名、女 七名

川本徳之助 大正九・三 佐藤 允夫 大正九・六
生澤喜久雄 大正一〇・一 會田 仁助 大正一〇・二
一色 コト 大正七・九 長澤みどり 大正一〇・一
佐々木福子 大正一一・二 齋藤トメ子 大正一〇・一二
山田トミ子 大正一二・八 柳沼 博 大正七・三
藤島 弘義 大正九・一〇
益田 行篤 大正九・八
益子アヤ子 大正一〇・四
篠原惠美子 大正一一・一二

初等部第四學年

梅學級 男 五名、女 四名

伊藤喜三男 大正一三・三 鈴木 利明 大正一三・三
國井 博 大正一三・三

廣瀬 良惠 大正一三・三 徳山 國吉 大正一三・一
 藤井 久子 大正一三・五 花崎 淑子 大正二二・一〇
 新保 スヰエ 大正一二・四
 安達 悦子 大正一三・八
 北島 豊 大正一二・二 深野 善作 大正二二・四
 久保 總一郎 大正二二・六
 大川 誠 大正二二・六
 櫻學級 男四名、女四名
 齋藤 俊治 大正一一・二二
 高橋 正治 大正一〇・二二
 荒木 みつ江 大正九・一〇
 小澤 保 大正九・一

初等部第三學年

枇杷學級 男六名、女四名
 横田 文男 大正一一・二 白根 澄 大正一一・二
 黒川 利子 大正一二・八
 太田 眞之助 大正一三・四
 岩澤 常義 大正一四・一
 小山 久次 大正一三・一 田中 康一 大正一五・一
 安藤 ふみ子 大正一三・一〇 尾野 友道 大正一三・二一
 松本文江 大正一四・二二
 柿學級 男六名、女四名

芥川 清一 大正一〇・一 川崎 豊 大正一一・一
 根本 常治 大正一三・二
 松原 正久 大正一三・一 林 幸雄 大正一三・二
 安井 富子 大正一三・四
 高橋 良夫 大正一五・三 佐々木 綾子 大正一一・八
 松尾 恭子 大正一五・一
 北根 しん子 大正一三・二二
 林檎學級 男七名、女五名
 岸梅三郎 大正一一・一 檜山 信 大正一三・一
 中山 禮藏 大正一三・九
 長谷川 員弘 大正一四・五 榮谷 保朋 大正一四・六
 田村 靖彦 大正一五・一
 近藤 智恵子 大正九・三
 松浦 富美子 大正一四・四
 香坂 英一 大正一五・一 新木 房枝 大正一三・五
 田上 ちよ 大正一二・五 服部 しづ 大正一三・四
 松浦 富美子 大正一四・四

初等部第二學年

葛浦學級 男七名、女五名
 二宮 清 大正一三・三 川田 安幸 大正一三・六
 小林 豊次郎 大正一四・一
 中野 清一 大正一四・一 佐藤 汎 大正一四・一
 清水 磨彦 大正一五・四
 山本 富雄 (不詳) 淺見 花子 大正一二・九
 山路 秀子 大正一三・四
 石川 エイ 大正一三・一〇 石井 キミ子 大正一五・一
 淺尾 ハツキ 昭和 二・九
 水仙學級 男九名、女三名
 鈴木 壽衛 大正一三・二 中村 助次 大正一三・二
 五月女 登美雄 大正一四・三
 久保 清 大正一四・六
 境野 公夫 大正一四・四 山田 實 大正一四・六

田中 哲雄 大正一五・三
 大川 良隆 大正一五・七
 堤 宗一 大正一四・七
 中村 好子 大正一三・一
 山口 靜江 大正一五・一〇
 磯部 初江 大正一五・二
 磯部 智子 大正一四・一
 柴田 惠美子 大正一二・二
 齊藤 初枝 大正一四・六
 宇佐美 敏子 大正一四・八
 石川 君江 大正一四・六
 笹井 登美子 大正一四・二
 佐藤 一 大正一四・二
 河村 俊英 大正一四・八
 兒島 德雄 大正一四・一〇
 青木 巖 大正一三・一二
 清永 克次 大正一二・三
 岩政 毅 大正一四・二一

初等部第一學年

紫苑學級 男 八名、女 六名

武淵 幸男 大正一四・四
 宮崎 吉藏 大正一四・八
 落合 勝江 大正一四・一
 伊藤 和子 大正一五・一
 村松 富美子 大正一五・二
 櫻井 弘治 大正一五・二
 鳥山 眞吉 大正一五・三
 小堀 有三 大正一五・六
 平原 正昭 昭和元・二
 千葉 節子 昭和二・一
 下川 準吉 (不詳)
 飯田 春代 昭和二・一
 千葉 節子 昭和二・一
 林 和歌子 昭和二・一
 井上 輝雄 昭和二・九
 撫子學級 男 八名、女 六名
 鈴木 安雄 大正一四・一二
 小林 央 大正一五・二
 平野 京子 大正一四・四
 鈴木 萬枝 大正一五・五
 田中 貢 大正一五・六
 栗原 良雄 大正一五・三
 平松 萬枝 大正一五・五
 坂本 恭一 昭和二・四
 西川 ハルヨ 昭和二・一
 平賀千代子 昭和二・二
 坂本 恭一 昭和二・四

卒業生名簿

第一回 (昭和六年三月)

西卷 周文 (中等部在學) 濱野 秀男 (同)
 井上朝三郎 (同) 馬場潤之助 (同)
 益田東作子 (同) 安井しづ子 (家事手傳)
 小泉 豊 (同) 金井 富美 (結髮學校卒業同業從事)
 海野 德子 (同) 赤穴 達郎 (彫刻師徒弟)
 日比谷 淳之助 (自宅木工手傳) 桑 派哲夫 (和歌山縣歸國家業手傳)
 金井 勝 (中等部在學) 保坂スマ (仕立屋に通ひ修業) 服部 澄 (和洋裁縫女學校修業)

内田 勉 昭和二・六 田中しづ子 昭和二・六 有馬 邦夫 昭和二・六
 同野 綾子 昭和二・一 柴田 般平 昭和三・三
 鈴蘭學級 男 七名、女 七名
 相澤 正 大正一四・一 池田 恭廣 大正一四・一 黒田 淑子 大正一四・三
 朝倉 清 大正一四・五 香渡 鶴子 大正一五・四 松原 久江 大正一五・五
 小泉 安喜 大正一五・一〇 佐久間とし子 大正一五・一 蒔田 都滋 大正一五・一
 岩崎 正行 大正一五・一一 森脇 照子 昭和二・二 坂上 修 昭和二・五
 大竹 繁子 昭和二・九 岩 淵 弘 昭和三・三

家庭にて手傳

- 河合淑子 (父母死没叔母の家に寄食)
- 中山健一 (中等部在學)
- 島村 實
- 岡戸そめ (自宅家事裁縫)
- 山野邊ナナ (同)
- 青木宏介 (洋服裁縫修業中)
- 伊賀野義男 (同)
- 廣木喜一郎 (中等部在學)
- 沖本とらよ (同)
- 尾野多見枝 (死亡)
- 八染つぎ代 (家事手傳)
- 大津達子 (仕立屋に通ひ修業)
- 窪田 幸 (コルク製造徒弟)
- 林 芳江 (家事手傳)
- 高橋幸子
- 金村よね
- 飯田房一 (家事手傳)
- 保坂正雄
- 清水ひさ (家事手傳)
- 森 やい (同)
- 小早川 美代子 (裁縫私塾に通學)
- 岩井 壽枝 (家事手傳)
- 淺野六之助 (靴製造徒弟)
- 河村千歳 (中等部在學)
- 杉浦松子 (家事手傳)
- 都築勇吉 (東京豊饒學校在學)
- 白井 敬 (ワイシャツカラー製造見習)
- 栗原便三 (自宅左官見習)
- 森 たみ (家事手傳)
- 佐藤芳江 (同)

第二回 (昭和七年三月)

- 倉持利平 (中等部在學)
- 佐藤太郎 (同)
- 堀部庄太郎 (同)
- 神道光子 (家庭にて家事裁縫)
- 村田 弘 (中等部在學)
- 山本作藏 (死亡)
- 安藤信治 (中等部在學)
- 遠藤理夫 (家事手傳)
- 塚原敏子 (中等部在學)
- 東條允子 (同)
- 柏崎 實 (同)
- 栗本清次 (同)
- 秋田寛二 (同)
- 岡澤 貞 (同)
- 國廣道子 (同)
- 三部つる代 (家事手傳)
- 田中秀夫 (電球製造工場にて働く)
- 井上信子 (中等部在學)

- 豊島静子 (家事手傳)
- 川村八重子 (中等部在學)
- 中山 勇 (同)
- 小倉米子 (同)
- 内藤美津 (自宅家事裁縫)
- 近藤政江 (家事手傳)
- 田熊君代 (自宅裁縫)
- 千葉利夫 (中等部在學)
- 長谷部歌子 (中等部在學)
- 島田榮子 (同)
- 重野二男 (カラー製造見習)
- 土田トミ (家事手傳)
- 大平ハル (婦人服の洋服學校に通學)
- 稻葉 末 (自宅家事裁縫手傳)
- 保月その (家事手傳)
- 加藤富美江 (中等部在學)
- 小俣由郎 (家業手傳)
- 小池 登 (中等部在學)
- 入江キン (仕立屋に通ひ修業)
- 上野富子 (和服裁縫所に通ひ修業)
- 服部きく (兄の靴店に通ひ手傳)
- 河野悦子 (仕立屋に通ひ修業中)

第三回 (昭和八年三月)

- 一色磯太郎 (中等部在學)
- 松野虎雄 (スリッパ製造)
- 齊藤美代治 (家事手傳)
- 關根よね (同)
- 廣田 章 (福井縣に歸國、農業)
- 小川遙松 (仕立屋に通ひ修業中)
- 木村鎮三郎 (中等部在學)
- 平賀榮子 (同)
- 長谷川 隆三郎 (同)
- 小林秀雄 (家業足袋屋手傳)
- 松戸重雄 (義齒技工見習)
- 石井スズオ (家事手傳)
- 山本松藏 (中等部在學)
- 石井俊雄 (鍍金職見習)
- 戸邊眞一 (自宅蒔繪修業)
- 黒川豊治 (自宅經師見習)
- 高柳和子 (中等部在學)
- 田村一雄 (家業手傳)
- 中澤文次郎 (家具及び建具屋に徒弟)
- 大森 昇 (家業「炭屋」手傳)
- 井上スズ子 (家事手傳)
- 齊藤新之助 (中等部在學)
- 横山正次 (スリッパ製造)
- 池田了秀 (中等部在學)
- 吉岡トミ (自宅裁縫)
- 土屋五郎 (理髮店徒弟)
- 井口 浩 (中等部在學)

柳下正己 (中等部在學)
 東條 收 (同)
 久保みゑ (同)

高橋敏夫 (同)
 川野榮子 (同)
 石川愛子 (同)

第四回 (昭和九年三月)

新橋博久 (中等部在學)
 中井喜八郎 (家業「酸素製造」の手傳)
 中山とよ (中等部在學)
 三間綾子 (同)
 波邊 毅 (同)
 海野晋之助 (同)
 小金井しん (同)

友野博士 (ワイシャツカ)
 村田周次 (中等部在學)
 内田芳江 (同)
 長野きみ子 (同)
 柴田武三 (同)
 神谷滿壽治 (初等部聽講)
 近藤みよ (家事手傳)

藤田種男 (家業手傳)
 村瀬直亮 (中等部在學)
 東條ハル (同)
 金子侑三 (同)
 尖戸高久 (理髮店徒弟)
 杉本照子 (中等部在學)
 宮田光枝 (同)

生徒轉退亡簿

轉入學者

塚原敏子 (四) 北澤校より 昭和三年 岡澤 貞 (同) 北澤校より 四・一
 花牟禮智子 (三) 同 小竹あや子 (二) 京都市立校より昭和四年四月 四・六
 小出秀子 (一) 大阪雙口話校より 四・一 佐藤芳江 (五) 濱松校より 四・六

後藤幸男 (二) 成瀬校より	五・四	秋田寛次 (五) 滋賀校より	五・一二
十河美博 (四) 名古屋校より	五・一二	村田弘 (五) 平塚校より	六・三
柴田武三 (四) 北澤校より	六・四	井上信子 (六) 北澤校より	同
高柳和子 (五) 名古屋校より	同	國廣道子 (六) 名古屋校より	同
花崎淑子 (一) 轉級	同	益田行篤 (二) 轉級	同
佐々周 (三) 横濱校より	六・九	柳下正己 (五) 横濱校より	六・一〇
本間芳二 (三) 轉級	同	廣田廣 (中二) 菊川小學校卒業	同
齊藤俊治 (二) 成瀬校より	七・四	荒木光江 (二) 金谷校より	同
柴田静枝 (中一) 北澤校卒業	同	齊藤美代治 (六) 復校	七・六
小倉米子 (中一) 指ヶ谷より復校	七・五	深野善作 (二) 成瀬校より	同
高頭良子 (二) 菓谷校より	七・九	香坂英一 (二) 大阪雙口話校より	同
山田トミ子 (四) 名古屋校より	八・四	堤宗一 (一) 二宮昭和學園より	八・九
高良子 (五) 轉級	同	吉田幸子 (中一) 群馬校卒業	九・四
綿貫美津枝 (六) 横濱校より	九・四		
猿渡光太郎 (六) 復校	九・五		

退學者

清水信壽郎 (一年)
 大谷妙子 (二) 關東州立へ轉校 (死亡)
 須藤百子 (三) 横濱校へ轉校

手島正助 (四)
 山口哲男 (四) 臺北へ轉校
 落合須美 (三) 横濱校へ轉校

山崎芳雄(四)	八・六	高橋ハナエ(二)	同
栗原とし(二)	同	高田シヅ(二)	八・七
町田キヨ子(二)	八・七	栗原富美英(六)	八・六
中澤文次郎(中一)	八・九	松戸重雄(中一)	八・九
波邊雪江(三)	八・九	山野邊ナヲ(中三)	同
森やい(中三)	同	荒井こま(三)	八・一〇
田村一雄(中一)	八・一〇	岡野孝治(二)	同
丹羽利子(三) 尋常小學校へ轉學	同	齋藤美代治(中一)	同
飯田房一(中三)	同	小林代喜(六)	同
内海英一(二)	同	丸岡千代(中三)	同
大越正(五)	九・二	河野彰三(五)	九・三
藤島和夫(同)	同	土屋五郎(中二)	同
小川遙松(同)	九・三	藤田種男(中一)	九・五
石井俊雄(中二)	九・五		

死亡者

大谷 妙子(四)	不詳	鈴木 文夫(四)	不詳	三橋 益子(一)	昭和四年六月
後藤 光成(三)	四・二	山口 正善(五)	五・一	小島 三郎(四)	六・九
染野 久(六)	六・一	小川 五郎(六)	七・八	山本 作藏(中二)	八・八

東京市立聾學校後援會その他

- 1 後援會沿革、規約及事業概要
- 2 父兄職業別統計
- 3 寄贈者芳名簿

東京市立聾學校後援會概要

一、沿革大要

大正十四年五月日比谷小學校と上野の萬年小學校に特別學級として聾部が設けられてより間もなく、日比谷にあつては馬場幸七氏、山本彌市氏、上野にあつては森彌一郎氏等率先して保護者を懲憑し、間接に學校の教育教授の後援をなす機關をつくり、昭和三年上野、日比谷兩聾部合併して現假校舎に移轉するに當り、兩保護者會も合流し、一旦同年六月をもつて兩保護者會を解散し、新らしく後援會を設立して、前會の趣旨を繼承し規則を改めました。そして第一回會長には日比谷時代の奔走者馬場幸七氏、副會長には森彌一郎氏、柏崎元治氏、會計には長谷川精三郎氏等推選され、此處に名實共に備はつた後援會の設立を見ました。

設立以來相原先生が學校と後援會との間を何くれとなく御世話下され、

昭和五年には會則の附則の一部を改正し、昭和八年には會長を理事長と改めました。昭和七年には改めて美素先生横田先生とにお手傳を委囑し、横田先生には購買係を願つて教授用具の節約、有効な教授用具の選擇等、商人との直接交渉に當つて戴き、會費の冗費を防ぎ、美素先生には現金出納を願つて之が正確を期し、昭和九年度には改めて大野先生にお手傳を願ひ、横田先生は學校と後援會との連絡及び豫算、決算の事務、大野先生は購買係、美素先生は従前通り現金出納係を委囑し、會計主任は昭和五年以來木村伊兵衛氏が之に當つて會計の萬全を期してゐます。

二、東京市立聾學校後援會々則大要

- 第一條 本會ハ東京市立聾學校後援會ト稱ス
- 第二條 本會ハ東京市立聾學校ノ後援ヲナシ併セテ聾教育ノ普及發達ヲ圖ルヲ目的トス
- 第五條 本會ハ兒童ノ保護者及特志者ヲ以テ組織ス
- 第七條 會員ヲ分チテ普通會員及贊助會員ノ二種トス
- 1 普通會員ハ會費ヲ納付スル者
 - 2 贊助會員ハ本會ノ趣旨ヲ贊助スル特志者
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 理事長 一名 理事 二名 會計 一名 幹事 若干名
- 第十五條 總會ニ於テ左ノ事項ヲ行フ
- 1 前年度ノ事業成績及會計報告
 - 2 役員ノ改選
 - 3 聾教育ニ關スル講演談話等
 - 4 其他重要ナル事項
- 第十六條 決議ハ出席會員ノ過半數ノ同意ヲ以テ決ス
- 第十七條 本會ニハ左ノ帳簿ヲ置ク
- 1 會員名簿
 - 2 會費收納簿
 - 3 出納簿
 - 4 記錄簿
 - 5 寄附名簿
 - 6 備品彙帳
- 第二十條 本會ニ金品ヲ寄附スルモノアル時ハ之ヲ受納ス

三、後援會事業概略

今、こゝに一ケ年を通じて後援會の目的の爲めに働いてる内容を記せば

【學用品支給】 此れは一人宛約五圓の割で學用品の殆んど全部を給與し、鉛筆及びケジゴムだけが父兄の負擔となつてゐる程度です。

【圖書、雜誌】 兒童に適した繪本雜誌を十種類位と、兒童に適した讀物とを與へてみますが此の費用も全部支出してゐます。

又職員の研究雜誌の全部と参考書の一部の費用を負擔してゐます。

【研究費補助】 職員が他校參觀及び研究發表等出張する場合は其の旅費を補助し且研究に要する諸費を補助してゐます。

【講演會及び講習會】 必要に応じて聾教育に關する講演會及び講習會を開く場合は其の費用の一部又は全部を支出します。

【救急費】 兒童が學校で發病又は怪我をした時の應急處置の費用を負擔してゐます。

【校外教授】 (イ)兒童の體験を増して言語生活を指導する爲に市内見學、潮干狩、其の他の見學等を行つて來ましたが、之に要する費用の大部を支出してゐます。

(ロ)第六學年生には修學旅行として日光及び鎌倉を見學せしめ此の費用の大部を支出してゐます。

【映畫會】 兒童に適切な映畫を選び、年に二三回觀せてゐます、そのためのフィルム借用代、技師派遣費其の他の費用全部を後援會で負擔してゐます。

【展覽會】 大展覽會一回、小展覽會二回を行つて兒童の成績向上につとめてゐますが此の費用も全部支出してゐます。

【學藝會】 學藝會も年に二回程やつてゐますが此の費用の大部を支出してゐます。

【運動會】 大運動會を一回、小運動會を數回行ひますが此の費用も全部支出してゐます。

【餅搗き】 年の暮に(隔年)餅搗きを行ひ、搗いたお餅を兒童に分け、小さなお供へを各兒童に持たせて歸へします。此の費用も

父兄職業調

蒲團商	一	醫器製造業	煎餅器製造販賣商	一	左官	一
材木商	二	電気商	町役場吏員	一	鐵道局技手	一
冷蔵庫商	一	メリヤス製造業	花卉商	一	組製造	一
漬物商	一	神官	財団法人職員	一	劇場大道具請負業	一
市電吏員	一	計算尺製作職工	自動車運轉手	一	コルク製造販賣業	一
金庫製造業	一	技藝商	織物裝飾用房糸商	一	表具建具職	一
保險代理店	一	帶上製造業	裁縫師	一	ハンキ屋	一
疊屋	一	鐵工職	軍人	一	炭間屋	一
宣傳業	一	捺染業	雜貨商	一	白米商	二
代書業	一	牛肉商	金屬雜貨商	一	洋品雜貨商	一
鐵道省機關手	一	スシ職	自動車ボデー製作業	一	教育地圖掛圖販賣業	一
大工	二	ワイシャツ商	鑄物業	一	機械仕上工	一
鐵道省雇	一	縮板業	製靴商	一	點字印刷業	一
料理店	一	襖表具材料品店	貴金屬商	一	製本業	二
棉花商	一	萬年筆製作商	電氣局車輛課技工	一	醫師	二
米穀商	二	菓子製造業	鐵道員	二	商業	二

全部支出してゐます。

【新年會】 正月八日には兒童一同講堂で餘興を見ながら茶菓を與へられて新年を壽ぐのですが此費用の全部を支出してゐます。

【傘】 貸傘を一人一本宛用意して急雨の際にそなへてゐます。

【參觀人】 一年に一千人からの參觀人がありますが、之が接待費をも幾分負擔してゐます。

【困窮者への補助】 卒業近く家庭の都合上退學の止むなき兒童があつた場合、見込のある者には會費免除、通學費補助の便法も考へてゐます。

【式日費】 四大節の菓子及び花代全部の費用を支出してゐます。

寄贈芳名簿

金額品名其他	氏名	金額
金五圓	金井龜之助	樹木廿五本(人夫付)
金拾圓	馬場幸七	畫板ベニヤ板
金拾圓	河田作介	運動會賞品
金拾圓	古立千吉	運動會賞品
金拾圓	馬場幸七	金五拾圓
金五圓	窪田英三	金六拾圓
金拾圓	中山ヨシ	木彫額
金拾圓	安井シヅ子	扇風機
金五圓	小泉金四郎	硝子及取附(約五十圓)
金參圓五拾錢	山本豊	硝子剥製
金壹百圓	林英	鷺剥製
金壹百圓	高木益太郎	海龜剥製
金壹百圓	倉持忠助	鷄剥製
金壹百四拾圓八拾錢		西洋紙五シメ
(但補聴器アニツーンシツニン及電池四個見積金額)		金參拾圓
茶器一式(但茶碗五十個)		不行棒平均臺材料
	馬場幸七	
	松浦喜三郎	
	益田慎	
	和田正雄	
	三橋督次郎	
	花牟禮清香	
	千葉松太郎	
	平賀城太郎	
	近藤由太郎	
	花牟禮清香	
	同	
	神谷清太郎	
	同	
	平賀城太郎	
	同	
	山田民二	

額縁製作業	一	酒商	二	軍需品製作	一	店員	四
掃除人	一	煙草商	二	郵便局長	一	ベニヤ板商	一
椅子製造業	一	寫真師	二	洋服屋	三	官吏	九
燃糸業	一	印刷業	三	雇員	三	魚河岸勤務	二
八百屋	一	女中	一	理髮業	三	下宿屋	二
借家業	三	牛肉料理店	一	酒造業	一	豆腐商	一
運送業	二	土木技術者	一	肥料商	二	硝子商	三
町村組合雇員	一	教員	四	警視廳消防手	一	食料品洋食器商	一
教官	一	吳服商	二	鍛冶屋	一	辨理士	一
僧侶	二	構内賣店	一	農業	七	漆器問屋	一
カフエー	一	仕立業	五	養鶏業	一	飲食店	一
自動車業	二	會社員	三	土木建築請負業	七	運動具ゴム製品卸賣商	三
兵器製造所勤務	一	寫真機械職	一	煎餅業	一	植木職	一
染物業	一	製圖と菓子小賣業	一	瓦業	三	豆屋	一
自轉車店	一	魚商	五	市電雇員	一	無職	二五
藥種商	二	印刷業	一	其他	四	合計	二五九



雁剝製 (價格約參拾五圓)
 大柱時計 壹個
 柱時計 壹個
 柱時計 參個
 樹木及草花
 籬 一組
 鳥剝製 七
 大國旗 旗竿
 優勝等級旗 六旋
 ラヂオ受信機
 同 擴聲機附
 鰐
 毬藻標本
 檜類(高松宮台臨記念寫真)
 鶴剝製
 校旗

花車禮清香
 栗本吉太郎
 小島太吉
 栗本吉太郎
 小金井留八
 島津治助
 倉持忠助
 島津治助
 同
 同
 侯爵徳川義親
 侯爵徳川義親
 同
 後援會
 神谷清太郎
 昭和八年度
 卒業生保護者

十年を語る

〔非賣〕

昭和九年六月二十二日印刷
 昭和九年六月二十八日發行

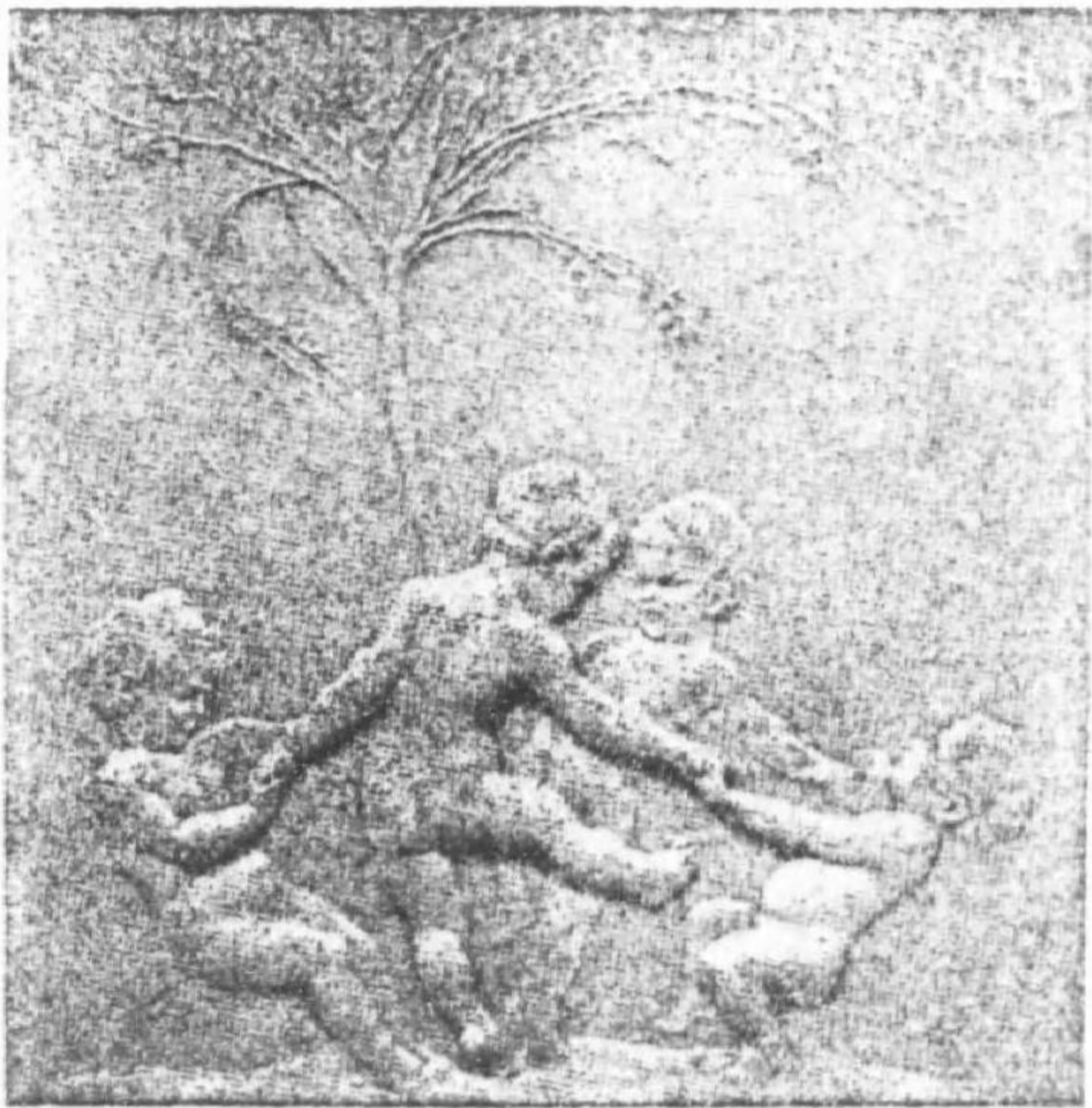
發行所

東京市豊島區西巢鴨七丁目一八五〇
 東京市立聾學校後援會

電話・大塚 三八六六番
 省線大塚驛下車・徒歩十分
 市電大塚辻町下車・二分

印刷・製本所

東京市豊島區西巢鴨二丁目三七三
 合資會社 光文社
 代表社員 三好泉
 東京市本郷區湯島新花町一〇〇
 健榮堂 丹羽賢次



終